

三ヶ尻、三尻、瓶尻、甌尻、甕尻の今昔

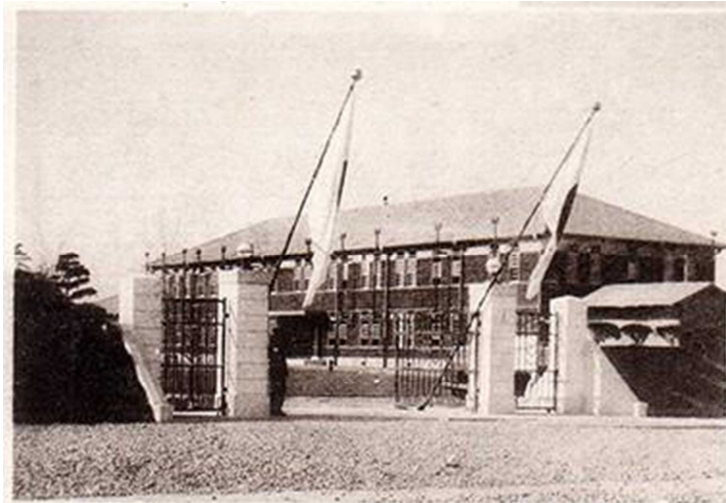
三尻公民館長 野口次夫

大宝年間には、武蔵国幡羅郡霜見郷瓶尻邨、拾六間邨、新堀新田邨と称せられ、奈良時代には、原の郷と玉井郷とに属していた。平安朝末期の頃は鶴岡八幡宮の神領となっていたが、その後黒沢武蔵守の居城の地となり、徳川家康が関東に入ると、家臣の三宅総右衛門の領地となり、慶長九年に三河国に所替となつてからは、明治四年の廃藩置県により武蔵知県事の管轄となるまで天領であった。

明治六年に幸安寺を仮校舎として、三箇尻小学校が開校され、同二十二に三ヶ尻村、拾六間村、新堀新田村の三ヶ村が合併して三尻村となる。昭和十年には西北部の山林を拓いて熊谷陸軍飛行学校が創設され、これを契機に耕地整理が行われる。敗戦とともに米軍が駐留し、その基地となったが、同二十二年、旧飛行場西半に開拓団が入植して、新たに御稜威ヶ原なる一字が誕生。同二十九年十一月、熊谷市と合併。当時の人口は785世帯、4,500人。同三十三年七月、米軍三尻キャンプが返還されると、これに代わって航空自衛隊熊谷基地が設定、第四術科学学校等が併設された。この頃より熊谷市は積極的に工場誘致に取組み、日本鋼管、日立金属、チチブセメント（現太平洋セメント）等が相次いで開業。

その後、昭和四十五年にも新都市計画の施行に伴い、主に御稜威ヶ原を中心とする地区が工業専用地域に指定され、工業団地として整備され、大企業、下請企業が次々に進出。社宅、市営・県営住宅等が造営され、籠原開拓地一帯は住宅街と化し、人口急増。同四十九年、籠原小学校が開校。同五十六年、籠原公民館が三尻公民館より独立創設される。

その後、籠原駅を中心とする地域が都市計画整備され、農村地帯から年々宅地化が進み、大変貌を遂げている。



熊谷陸軍飛行学校

(熊谷市公協だより 第41号 平成16年より)